

視察用

様式(細則 5-2)

平成 30 年 6 月 5 日

浜田市議会議長
川 神 裕 司 様

議員名 串崎 利行



調 査 研 究 活 動 報 告 書

下記のとおり調査研究のため視察等を行ったので、その結果を報告します。

記

1. 期 間 平成 30 年 5 月 9 日 (月) ～ 平成 30 年 5 月 11 日 (水)

2. 視察先および研修テーマ

(1) 場所 栃木県佐野市 佐野市役所
内容 特定非営利活動法人エコロジーオンライン

- ① 認知症ケアの取組について
「オトトカラダ」プロジェクト
- ② カラフルファームの取組について

(2) 場所 埼玉県横瀬町 横瀬町役場
内容 官民連携のまちづくり「よこらぼ」について

3. 参加者 川上幾雄、永見利久、串崎利行、上野茂
田畑敬二、西田清久、澁谷幹雄、川神裕司

4. 調査経費 389,220円 / 8人 = 48,652円



4. 調査経費 389,220円/8人=48,652円

5. 調査研究活動の概要

1. 特定非営利活動法人エコロジーオンライン

理事長：上岡裕 事務局長：上岡七生美

エコロジーオンライングループは、実践を通して、音楽、アート、エンターテインメントなど、様々なコンテンツを医療、介護、まちづくりの現場に届ける取り組みをしている。

① 認知症ケアの取組について

「オトトカラダ」プロジェクト

栃木県佐野市に本部を置くNPO法人エコロジーオンラインは、活動を始めて17年。ライターや編集者、漫画家、カメラマン、ミュージシャン、カフェオーナー、建築家などが参加して様々な環境活動に取り組んでいて、昨年より「オトトカラダ」という事業をスタートした。中心的な活動がMesic&Memoryというアメリカから始まった認知症ケアの取り組みで、好きだった音楽を聴くことで元気がでるとの事で、少しずつ全国に普及している。

② カラフルファームの取組について

農林福連携事業として、栃木県佐野市をホームタウンとした農業法人が、切り花のトルコギキョウを栽培している。障がいを持った方や高齢者の方など働く人もカラフルで楽しいソーシャルファームとして活動している。

所感

好きだった音楽を携帯型音楽プレーヤーで聴くことで、心や身体を少しずつ活発になると話され、音楽による認知症のケア、コンテンツと脳、介護の関連性の研究、高齢者介護に活用するコンテンツ、認知症予防をテーマとするツーリズム、音楽による高齢者の居場所づくり等、取り組みをされている。認知症は高齢者が急速に進む浜田市にとっても非常に重要な課題であり、今後検討する必要性を感じた。

カラフルファームは、ユニバーサル農業を目指す農業法人との連携、就労支援施設が手がける農業の支援、就労支援施設で働く人材と農業生産法人とのマッチング等、取り組みをされている。農林業は、高齢者と担い手不足で厳しい状況の中、農林福連携事業は全国的に取り組みの事例も聞いている。こうした中、農林福連携事業は、浜田市も特に力を入れて行くべき事業の一つであると改めて感じた。

2. 官民連携のまちづくり「よこらぼ」について

説明者：富田能成（横瀬町長） 他、執行部・議会関係者

「よこらぼ」は、横瀬町とコラボ（協力）するラボ（研究所）という意味で、企業などから提案を受けて町が持つ資源を共同で有効活用する仕組みであり、新たなまちづくり手法として定着を目指している。

所感

埼玉県秩父町郡横瀬町は、人口 8,500 人の小さな町だが、東京より 70 キロしか離れてなく都市部の田舎であるが、人口減少は進んでいる。富田町長は、小さい町だから、町民の顔がわかり、きめ細かいサービスも出来ると話され、又、同じやり方では町は減少して衰退する、その為には、まちの未来を変えねばならない、変えるために新しいチャレンジが必要で、「よこらぼ」と言う事業をされ、アイデアを外部から集めるなど、発想な転換が鋭いと感じた。人口減少をくい止め元気な浜田市にする為には、発想の転換をし、新たなまちづくり手法を早急に考える必要があり、その為の人材の育成が非常に大事だと感じている。